

2026 年度第 1 回 一般社団法人日本箱庭療法学会研修会のお知らせ

主催：一般社団法人日本箱庭療法学会

日 時： 2026 年 7 月 26 日（日）10：30～16：30（受付 10：00～）

会 場： 京都リサーチパーク（京都市下京区中堂寺粟田町 93）/Zoom

ご挨拶

日頃、さまざまな心理臨床の現場に携わっておられる皆さまには、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。2026 年度第 1 回の全国研修会を京都リサーチパークで開催いたします。今回も、前回に引き続き、オンサイト参加とオンライン参加のハイブリッドで開催させていただきます。

全体会には、京都大学准教授・野口寿一先生をお迎えいたします。野口先生は、スクイグル法を通して、言語面接だけでは十分に触れにくいところの動きにどのように接近できるのかを、実践的に探究してこられました。治療関係のなかで生まれるイメージを急いで解釈したり、意図的に方向づけたりするのではなく、そこに生まれてくるものに関与しながらも、同時にそれ自身の動きを損なわない態度とはどのようなものなのでしょうか。この「関わること」と「しすぎないこと」のあいだの微妙な感覚が、非常に具体的なかたちで問われる技法であるスクイグル法からそれを紐解いていただきます。言葉にならない体験がイメージとして現れる場面やセラピストが描画に参加することの意味、そしてイメージに対する臨床的態度についてじっくりと考えていく時間になるかと思えます。初学者の方たちにとっても、イメージを扱う心理療法の核心に触れる貴重な機会となるでしょう。

後半の分科会では、6 つの分科会を設けております。事例を募集している分科会もありますので、どうぞ奮ってご応募ください。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

2026 年 5 月吉日

一般社団法人日本箱庭療法学会 研修委員長 岩宮恵子

<開催要領>

1. 定 員：オンサイト参加者 120 名
オンライン参加者 無制限

会場に来場いただく「オンサイト」参加と、Zoom を使用して視聴いただく「オンライン」参加を選択可能なハイブリッド形式での開催となります。

参加資格：心理臨床の事例に関して守秘義務を負うる、以下の条件のいずれかを満たす方とします。

- ①一般社団法人日本箱庭療法学会会員
- ②箱庭療法を導入・または導入を検討中の児童相談所・児童養護施設等の心理職に従事されている方
- ③臨床心理学およびその関連領域で心理臨床の実践的な仕事に従事されている方
- ④心理臨床を専攻する大学院生

2. 参 加 費：学会員：4,000 円 非会員：7,000 円 大学院生（非会員）：5,000 円

3. 研修ポイント：全体会、分科会の両方に参加した方には、日本臨床心理士資格認定協会「臨床心理士教育・研修規程別項」第 2 条（3）「本協会が認める関連学会での諸活動への参加」の通り、受講者には 2 ポイント、分科会での事例発表者には 4 ポイントが付与されます。

4. 研修内容

(1) 全体会：10：30～12：30

テーマ：『スクイグル法はイメージの心理療法について何を教えてくれるのか』

講師：野口 寿一（京都大学大学院教育学研究科）

イメージの自律性を尊重する心理療法において、セラピストはどのような態度でイメージに関与すればよいのか。この問いには、何かを「する」という角度からも「しない」という角度からも応えることができようが、初学者が実感を持って掴むことはなかなか難しい。そこで今回は、スクイグル法という一つの技法に限定し、それを窓にして覗いてみたい。スクイグル法は、精神分析家ウィニコットが子どもとの面接で用いはじめた技法であるが、箱庭療法学会の事例報告でもよく登場する技法の1つである。今回は、第3のものとしてのイメージというユング心理学の考えとスクイグル法の接点について考えつつ、セラピスト自身が描画を行うことの意味、セラピストが描画に対してとるべき態度について考えたい。

(2) 分科会：13：30～16：30

以下の6グループに分かれ、分科会を行います。

概要の最後に<事例募集>の表記のある分科会では、事例発表者を募集しています。事例発表希望者は、「5. 参加・発表申込について」をご参照の上、お申し込みください。

● 第1分科会 石原 宏（島根大学）

『プレイセラピーとしての箱庭療法』

プレイセラピーで使われる箱庭は、砂箱を舞台にした遊びとなることも多く、必ずしも、まとまった作品が作られるわけではない。このような箱庭は、最終形態を写真に撮って残したところで、そこで起きていたことを記録することは難しく、また次々と移り変わっていく遊びを言葉で記録することも難しいことが多い。本分科会では、そのような、何か大事なことが行われていたが、何が起きていたのかつかみかねているような事例について、発表者・参加者とともに遊びのプロセスに十分に浸ってみることで検討してみたい。

（事例提供者：土合悠太氏）

● 第2分科会 岩宮 恵子（島根大学/にしきまちオフィス）

『反応の乏しさの奥にあるもの—内向性と自閉傾向をめぐる不登校児のプレイセラピー—』

幼いころから自閉傾向を心配されてきた子どもが、不登校へと至ることは少なくない。だがそのありようは、自閉傾向としてだけでなく、強い内向性として捉えるべき側面を含んでいることもある。というのも、内向性と自閉傾向とは、集団への入りにくさや対人場面での控えめさ、反応の乏しさといった点で、外からはよく似て見えることが少なくないからである。今回はこうした問いを抱えながら、不登校ということで来談した小学生女子の描画や箱庭表現の経過を通して反応の乏しさの背後にあるこころの動きと、そこで育まれていった関係の意味について考えてみたい。

（事例提供者：田澤一麻氏）

● 第3分科会 梅村 高太郎（京都大学大学院教育学研究科）

『喪の過程における“つながり”と“へだたり”』

愛する対象を失った後に辿ることになる心理的プロセス、すなわち喪の過程において、喪失を経験した者は対象の不在という峻厳な現実を受け入れ、自らの人生を再び歩んでいくことを迫られる。とりわけ死別体験においては、その悲嘆は耐え難いものとなり、一変したこの世界を生きることには深い困難を抱え、亡き対象を求めて“この世”と“あの世”のあわいをさまようことも少なくない。臨床場面に限らず、遺された人々が体験する夢は、このあわいに漂いながらも、底流において進行するこころの作業を垣間見せてくれるものであり、私たち臨床家が、悲嘆に沈むクライアントに同行する上での確かなよすがとなる。

本分科会では、喪の仕事に関する諸理論や喪の過程における夢についての先行研究を整理しつつ、そのプロセスにおいて生じる二つの力動——対象に近づこうとする“つながり”と、対象から距離を取ろうとする

“へだたり”——が、夢やイメージを通じていかに現れ、実現していくのかを検討する。合わせて、心理臨床実践において喪の仕事という視点が時に孕む陥穽についても、批判的に目を向けたい。

<事例募集> 広い意味での喪失や喪の仕事がテーマとなる事例。夢・箱庭・描画・遊びなど何らかのイメージ素材が含まれていることが望ましい。

● **第4分科会 河合 俊雄（京都こころ研究所）**

『前思春期・思春期の語り・イメージ』

思春期に危機を迎えるクライアントは多いが、その際に思春期特有の課題だけではなく、前思春期の課題である自意識の確立やチャムシップの獲得をクリアできずに引きずっている場合も近年特に多いように思われる。そのような事例を元に、前思春期・思春期の課題に語りやイメージを通してどのように心理療法で向き合っていくのかを検討したい。

（事例提供者：長谷川千紘氏）

● **第5分科会 田中 康裕（京都大学大学院教育学研究科）**

『心理療法と意識の在り方の多様性：アセスメント・ツールとしてのイメージ』

いわゆる病態水準だけでなく、定型から非定型に至る発達スペクトラムや主体脆弱性のスペクトラムについてある程度アセスメントをすることが、今日の心理療法では必須である。夢分析や箱庭療法、描画療法は「イメージの心理療法」であるが、ユングの「イニシャル・ドリーム」の概念からもわかるように、一つの夢、箱庭、描画は、その後のセラピーの展開を予示しているとともに、クライアントの意識の在り方を知るための有効なアセスメント・ツールでもある。この分科会では、このような「アセスメント・ツールとしてのイメージ」について、実際の事例を通して理解を深めたい。

<事例募集> 短い経過でもかまわないので、面接の初期に、夢・箱庭・描画を扱った事例を募集します。

● **第6分科会 野口 寿一（京都大学大学院教育学研究科）**

『スクイグル法と言葉』

スクイグル法は非言語的な技法と言われるが、同時に言葉の使用を伴うことも多い。例えば、表現した描画についての話、セラピストの解釈やコメント、クライアントのコメント、絵をつなげて物語を作るなどである。絵はイメージの多義的な意味をそのまま保持することができるが、言葉は意味を固定し限定することが多い。それによって何か損なわれることもあれば、言葉の使用によってイメージに深くコミットできるときもある。この分科会では、描かれたものと言葉とがどのように絡み合いながらケースのプロセスが進んでいくのかを考えてみたい。

<事例募集> 心理療法の中でスクイグルあるいはMSSMを用いた事例を募集します。継続して用いた事例でもいいですし、一回だけでも構いません。短い事例でも長い事例でも構いません。

5. 参加・発表申し込みについて

【参加申込】

当会ホームページ (<http://www.sandplay.jp/training.html>) および右記 QR コードの申込フォームよりお申し込みください。申し込みが完了しましたら、自動返信メールが送信されます（※パソコン、スマートフォン対応）。自動返信メールが届かない場合は、日本箱庭療法学会全国研修会事務局 (training_jast@sandplay.jp) までお問い合わせください。



【秘密保持に関する誓約書の提出について】

参加申込フォームに誓約書の入力画面がございます。内容をご確認いただき、チェックを入れてください。誓約書をご提出いただけない場合は、研修会にはご参加いただけません。また、誓約内容に違反された場合、大会・研修会参加資格の停止等の措置をとらせていただきますので、あらかじめご了承ください。

【事例発表申込】

上記の参加申込フォームよりお申し込みいただけます。事例発表を「希望する」にチェックし、申込フォーム上にある「事例概要記入シート」にご記入の上、別途メール添付で日本箱庭療法学会全国研修会事務局（training_jast@sandplay.jp）までお送りください。参加申込締切後、事例発表の可否について、事務局よりご連絡いたします。

※「事例概要記入シート」は、当会ホームページからもダウンロードしていただけます。

※ **事例発表申込締切：2026年6月26日（金）【必着】**

※ **参加申込締切：2026年7月15日（水）【必着】**

- ・お申し込みは原則として先着順です。
- ・分科会コースの通知はおこないません。お申し込みいただいた分科会で受付けさせていただきます。
- ・定員となった分科会より締め切らせていただきます。希望者多数の場合にはご参加いただけない場合もございますので、あらかじめご了承ください。

6. 参加費振込みについて

- ・自動返信メールを受領後に、以下の口座へ参加費をお振込みください。

＜郵便局・ゆうちょ銀行から振り込まれる場合＞

振込先：00900-8-233788

加入者名：一般社団法人日本箱庭療法学会研修委員会

＜他金融機関から振り込まれる場合＞

銀行名：ゆうちょ銀行

店番：099

預金種目：当座

店名：〇九九店（ぜろきゅうきゅう店）

口座番号：0233788

- ・お振込の際に、自動返信メール内に記載されている【受付番号】をお名前の前に必ずご記入のうえ、お手続きください。（例：8528 ハコニワカワ）
- ・振替用紙を使用される場合、通信欄には「2026年度第1回全国研修会参加費」と自動返信メール内に記載されている【受付番号】とお名前をご記入ください。（例：8528 ハコニワカワ）
- ・納入された参加費の返金はできませんので、あらかじめご了承ください。

※ **参加費振込締切：2026年7月17日（金）**

7. 参加証について

オンラインで参加された方には、当日受付にて参加証をお渡しいたします。参加証が研修会証明書の代わりになりますので、大切に保管してください。

オンラインで参加された方には、終了後にメールにて送付いたします。送付までにお時間を頂戴いたしますので、ご了承ください。なお、終了後1ヶ月を過ぎても届いていない場合は、training_jast@sandplay.jp までお問い合わせください。

8. 会場案内

京都駅よりJR嵯峨野線（山陰線）2駅
丹波口駅下車 西へ徒歩5分

※その他のアクセスについては、
京都リサーチパークホームページを
ご参照ください。

(<https://www.krp.co.jp/access/>)

9. 研修会に関するお問合せ先

一般社団法人日本箱庭療法学会
全国研修会事務局

E-mail: training_jast@sandplay.jp

